

# 企画セッション「渋川春海の星」 主旨説明

【招待講演】 渋川春海と星座 【40分+10分, オンライン】

[Invited] Harumi Shibukawa and Constellations

嘉数 次人(大阪市立科学館)

Tsuguto Kazu (Osaka Science Museum)

【招待講演】 渋川春海の星図の研究 【50分+10分, オンライン】

[Invited] Study of the Star Charts made by Harumi Shibukawa

竹迫 忍(日本数学史学会)

Shinobu Takesako (Japanese Society for the History of Mathematics)



真貝寿明

(大阪工業大学情報科学部)



# 最近, 中国星座へのアクセスが容易になりつつある

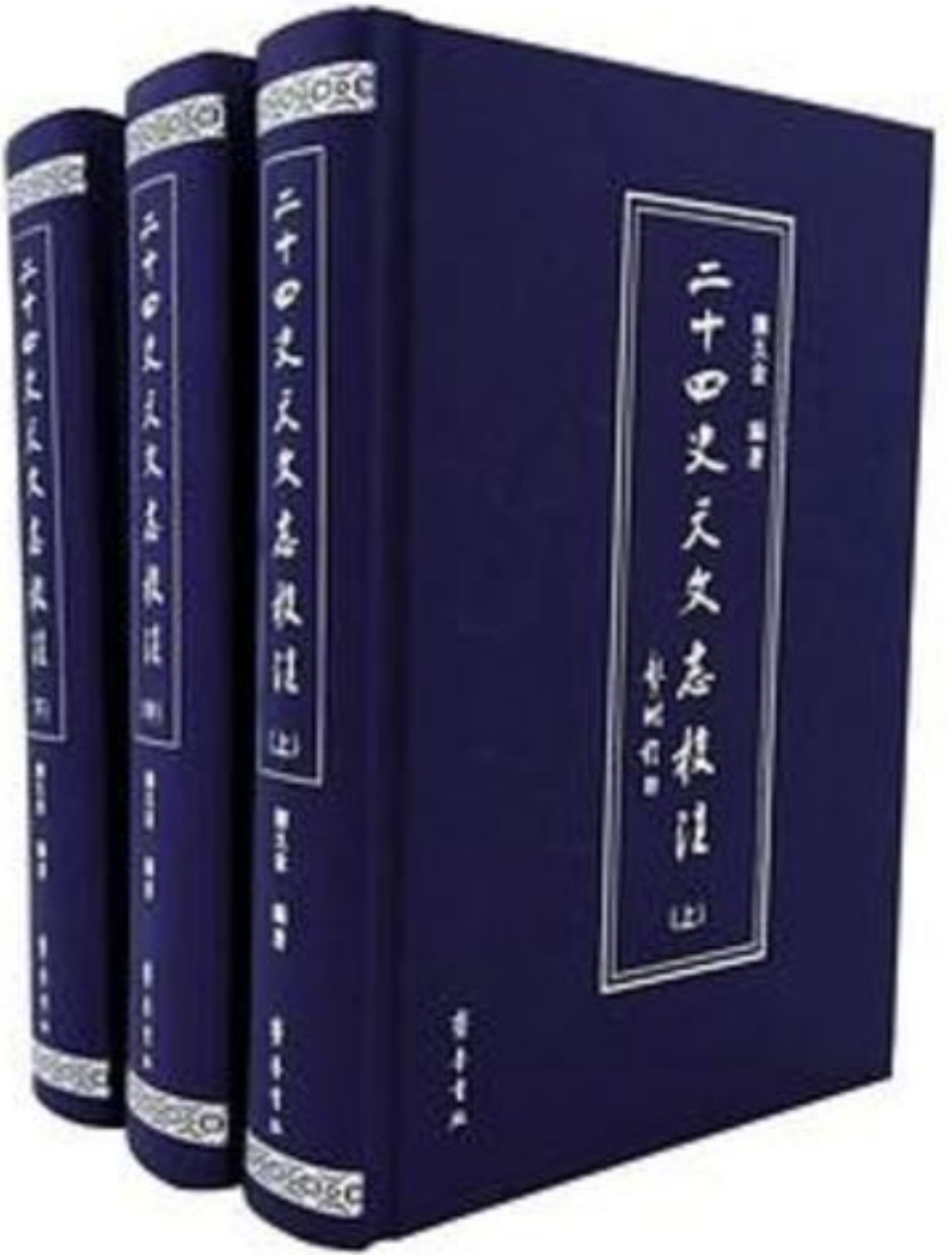
科学出版社東京 (2024/10/25)



雄山閣 (2023/11/28)



二十四史天文志校注(全3冊)(二十四史志書注解全編)  
陳久金 齊魯書社 2022





# 渋川 春海（1639-1715）

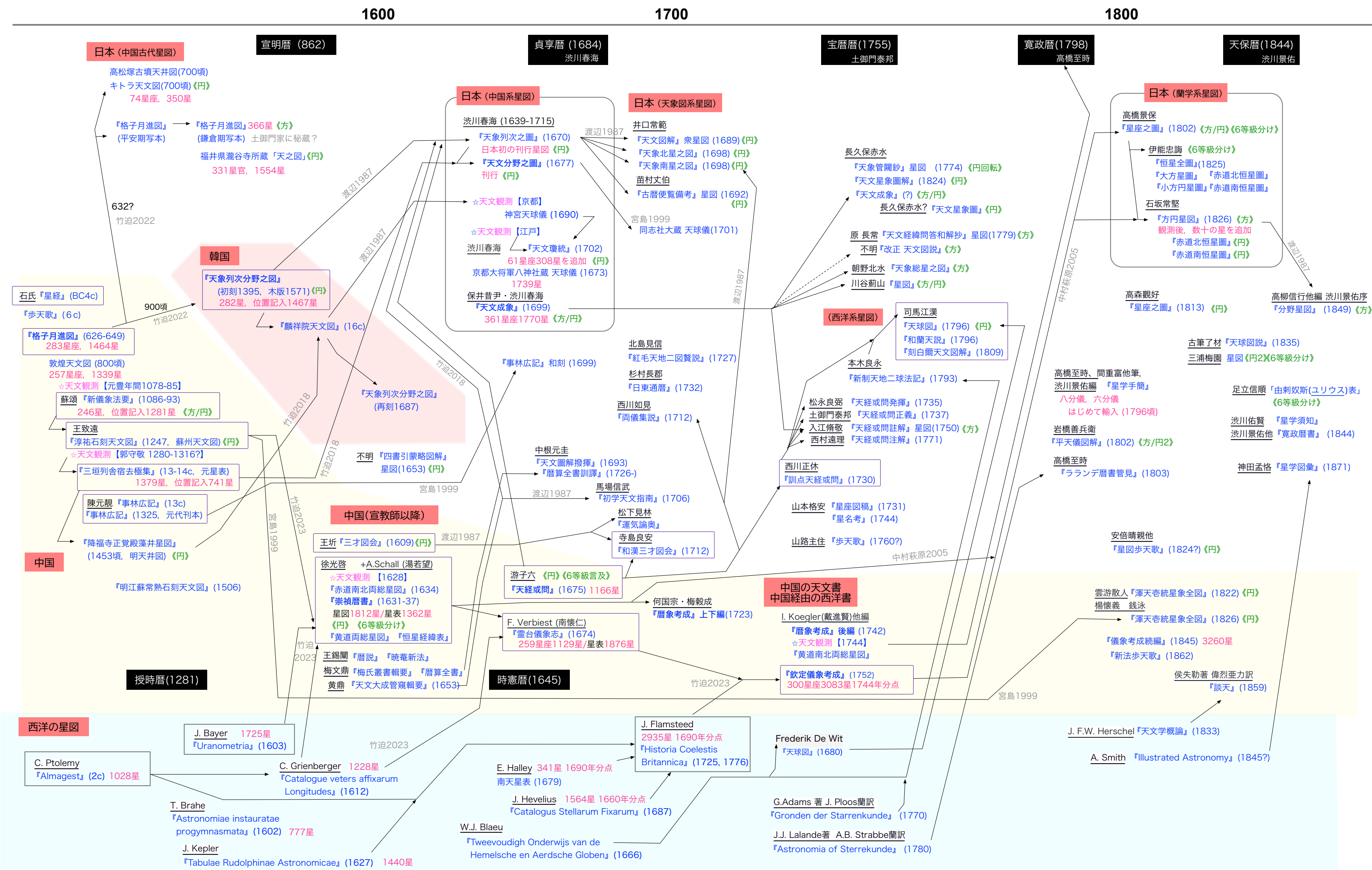


- 21歳 万治2年(1659)幕府より禄を受け、御城碁に初出仕
- 32歳 寛文10年(1670)天体を日夜観測, 宣明暦から元の授時暦への改暦を願い出  
星図作成「天象列次之図」(1670)、「天文分野之図」(1677)
- 37歳 延宝3年(1675)元の授時暦にもとづく日食予報に失敗
- 46歳 貞享元年(1685) 初代幕府天文方に
- 46歳 貞享2年(1685) 貞享暦へ改暦(初めて日本人によって編纂された暦)
- 52歳 元禄3年(1690) 日本で最初の地球儀と天球儀をつくる  
天文書「天文瓊統」(1699)「天文成象」(1699)

二世安井算哲 > 保井算哲 > 保井春海 > 渋川 春海



# 江戸初期は, 中国系星図の時代



# 聞きどころ

【招待講演】 渋川春海と星座 【40分+10分, オンライン】

[Invited] Harumi Shibukawa and Constellations

嘉数 次人(大阪市立科学館)

Tsuguto Kazu (Osaka Science Museum)

江戸時代の天文学者渋川春海は、星座や恒星位置に関する研究に力を入れており、その中でも、『天文分野之図』における分野説の採用、息子の昔尹名義による『天文成象』に見られる新制定の星座などがよく知られている。これらの**星座研究には、天文占が深く関係**している。ここでは、渋川春海の星座研究について、天文占との関係を中心に見る。

【招待講演】 渋川春海の星図の研究【50分+10分, オンライン】

[Invited] Study of the Star Charts made by Harumi Shibukawa

竹迫 忍(日本数学史学会)

Shinobu Takesako (Japanese Society for the History of Mathematics)

江戸時代の天文学者渋川春海は、平安時代から使われた宣明暦に代わる貞享暦を作成したが、星図や天球儀を残したことでも知られている。これまでの星図の研究では、距星の位置による年代推定が重視され、星図に描かれた星座の形や名称などの研究はされてこなかった。春海の星図についても同様で、星図自体の研究はほぼ行われていない。また、**春海の中国星座の星の同定は評価されているが、参考にした星図や文献は不明だった**。研究では、春海の星図の特徴を、現存する中国星図の特徴と比較することにより、中国星図の系統の中での位置づけを検証し、春海が影響を受けた星図を推定し特定した。